

まちづくり交付金 モニタリングシート
宇都宮駅周辺地区

平成21年8月

栃木県宇都宮市

様式3 評価結果のまとめ

都道府県名	栃木県		市町村名		宇都宮市		地区名		宇都宮駅周辺地区		面積	71ha		
交付期間	平成18年度～平成22年度		事後評価実施予定時期		平成22年度		モニタリング実施時期		平成21年7月		交付対象事業費	9835.3百万円	国費率	0.4
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施済み、実施中、実施予定の事業	基幹事業	事業名 道路、地域生活基盤施設(交流広場、公共サイン)、高質空間形成施設(緑化フェンス、公衆便所、エレベーター、エスカレーター)、高次都市施設(東西自由通路、広域交流プラザ、産業観光プラザ)					事業進捗の状況(順調か、遅れているか) 民間企業の辞退により拠点施設が整備できなくなったことから、拠点施設内に合築となる広域交流プラザ、産業観光プラザや交流広場などの、交付対象事業の計画期間内実施が困難となっている						
		提案事業	地域創造支援事業(中心商店街の活性化、都心居住の促進、文化の振興)					都心居住の促進は継続して事業実施中。中心商店街の活性化については現在まで事業者からの申請がない状況である						
	当初計画から削除した事業	基幹事業	事業名 高質空間形成施設(照明、植栽等の駅前駅前広場の一部)					削除/追加の理由 土地区画整理事業による国庫補助(個性あるまちづくりの推進)導入が可能になったため		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響 影響なし				
		提案事業	—					—		—				
	新たに追加した事業	基幹事業	道路(バリアフリー整備)、地域生活基盤施設(自転車駐車場整備)、高次都市施設(今泉コミュニティセンター整備)					安心・安全な歩行者空間の確保、交通結節機能の強化、地域住民の相互交流を目的として追加		目標1「交通結節機能の強化」及び目標2「賑わう交流拠点の形成」の達成につながる				
		提案事業	地域創造支援事業(防犯カメラ整備)					安全で安心なまちづくりの推進にあたり、防犯カメラ整備工事を追加		目標2「賑わう交流拠点の形成」の達成につながる				
交付期間の変更	当初	平成18年度～22年度		変更		平成 年度～ 年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響 —						
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		モニタリング		目標	総合所見	今後の対応方針		
	指標1	宇都宮駅乗降客数	(人/日)	70,000	H14	74,000	H22	70,832	H20	あり ●				
	指標2	(仮称)交流広場イベント回数	(回/月)	5	H16	10	H22	—	—	なし ●				
	指標3	東大通り通行量	(人/日)	3,300	H16	4,200	H22	4,141	H20	あり ●				
	指標4	コンベンション施設利用者満足度		2.8	H17	3.1	H22	—	—	あり ●				
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		モニタリング		目標	総合所見	今後の対応方針		
	その他の数値指標1	今泉地域コミュニティセンター年間利用回数	回	260	H17	/	/	375	H20	/				
	その他の数値指標2	駅前口地区における放置自転車撤去台数(1回あたり)	台/回	26.2	H17	/	/	10.8	H20	/				
	その他の数値指標3	旧篠原家住宅入館者数	人	7,244	H16	/	/	8,610	H20	/				
	その他の数値指標4	公共交通機関への乗換時間	分	2.25	H17	/	/	0.78	H20	/				
その他の数値指標5	地区内定住人口	人	2,939	H17	/	/	2,995	H20	/					
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 駅前広場の機能向上により、電車・バス・タクシーなどへのスムーズな乗り換えなど利便性の向上が図られた ユニバーサルデザインを導入したことにより、障がい者やお年寄りを含めた全ての人が安心して利用できる環境が形成された 景観水路を整備し、植樹や鯉の放流を行ったことにより、駅前のオアシスとしての緑豊かな安らぎのある憩いの空間が形成された コミュニティセンターを整備したことにより、人々が集うスペースが創出され、住民の地域交流に対する意識の向上に寄与した 防犯カメラを設置したことにより、不特定多数の市民等が多く行き交う駅前広場等の利用者に対して、安全と安心の空間を創出した 													
5)実施過程の評価	実施内容					実施状況					今後の対応方針等			
	モニタリング	—					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した							
	住民参加プロセス	水辺空間の整備にあたりデザインや整備手法について、地元住民とのワークショップを開催した					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した					● 今後も継続してまちづくり等に関する協議を行っていく		
持続的なまちづくり体制の構築	—					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した								
6)モニタリングの所見	総合所見	順調	急激な経済情勢悪化の影響で、民間事業者が拠点施設整備を辞退したため、広域交流プラザ、産業観光プラザや交流広場などの交付対象事業の期間内実施が困難となっており、改善が必要である					今後の事業の改善点		● 昨今の経済情勢を考慮した上で事業手法、スケジュールの見直しを行う 併せて都市再生整備計画の見直しを行う				
		要改善												

都市再生整備計画(第2回変更)

うつのみやえきしゅうへんちく
宇都宮駅周辺地区

とちぎ うつのみや
栃木県 宇都宮市

平成19年8月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	栃木県	市町村名	宇都宮市	地区名	宇都宮駅周辺地区	面積	71 ha
計画期間	平成 18 年度 ~ 平成 22 年度	交付期間	平成 18 年度 ~ 平成 22 年度				

目標

大目標:北関東をリードするひと・もの・情報・文化の交流するゲートシティの形成
 県都・宇都宮の玄関口として、ひと・もの・情報・文化が活発に交流し、北関東、さらには全国に発信する都市拠点を形成する。
 目標1:北関東最大のターミナル駅に相応しい交通結節機能の強化
 目標2:50万市民や来街者が集い、賑わう交流拠点の形成
 目標3:北関東をリードする新たな拠点に相応しい都市機能の集積

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況
 宇都宮市は、古くから門前町、宿場町、城下町として栄え、県都として農・工・商の均衡の取れた産業都市に成長し、現在は教育・文化・業務などの総合的な都市機能が集積した広域都市圏の中核都市として発展を続けている。
 本地区は、栃木県最大のターミナル駅・宇都宮駅を中心とする広域交通の要衝に位置しており、駅西口には県内の政治・経済・文化の中心である商学・業務施設が集積し、駅東口はテクノポリス等の全国有数の高度技術産業ゾーンの玄関口となっている。
【現況】
 大規模商業施設等の撤退や郊外移転、文化・教育施設の郊外分散化により、中心市街地の空洞化が進行している。
 宇都宮駅は7万人が乗降する北関東屈指のターミナル駅であり、公共交通の結節点であるが、路線バスの西口への偏在(運行本数は西口9割、東口1割)等により、その機能が十分に発揮されておらず、また自動車交通依存型の社会となっている。
 大規模空閑地があり、有効な活用がなされていない。
 本地区及び本地区周辺は、古くから門前町、宿場町、城下町として栄えた地域であり、旧篠原家住宅、田川や宮の橋等の地域資源が点在している。
 本地区を含む都心部では、老朽住宅等密集地改善の遅れなど、住環境の悪化により、居住人口は最近15年間で2割減少しており、また高齢化が進展している。
【市民ニーズ】(H15市民アンケートモニター意識調査)
 活性化が必要な場所として、宇都宮駅周辺を挙げる人が7割を超える。
 宇都宮駅周辺の活性化に必要なものとして、「魅力ある商業施設」(24.1%)、「駐車場」(23.0%)、「文化施設などの活動する場」(12.7%)が挙げられている。
 宇都宮駅東口に望む施設として、「鉄道やバスなどの乗換に便利な交通広場」(17.4%)、「ゆったりと過ごせる公園・広場」(13.3%)、「色々な催しができるホール」(10.6%)が挙げられている。
【まちづくりの経緯】
 平成11年3月に市民参画の懇談会における意見を踏まえた「中心市街地活性化基本計画」を策定し、中心市街地活性化の方向性を示した。さらに、パブリックコメントや商工会議所との意見交換を踏まえ、より具体的な中心市街地の姿と戦略的事業等の大枠を示した「宇都宮都心部グランドデザイン」を策定した。その後、市民が主体となったまちづくりを進めるため、学識経験者や市民を交えた懇談会を開催し、宇都宮駅周辺の整備について検討した。
 新たな拠点として整備を進める宇都宮駅東口地区については、公民パートナーシップ型事業を推進している。また、有識者等を交えた「宇都宮駅東口整備検討協議会」、パブリックコメント等を実施し、まちづくりの基本方針となる基本計画を策定した。
 宇都宮駅東地域の活性化や交通問題等の諸課題の改善を目的としたNPOである駅東まちづくり21が設置され、花みずきフェスタ等のまちづくり活動が実施されている。

課題
 宇都宮市の発展を支える広域交流の拠点として、交通結節機能の強化、賑わいの創出が喫緊の課題である。
 自動車交通依存に因る交通渋滞、交通事故や環境問題解決のため、交通体系の再構築が必要である。
 高齢者や来街者に配慮した歩行空間の確保やバリアフリーの推進が必要である。
 多くの人々が集散する県都・宇都宮の玄関口として、憩いの空間や魅力ある街並みの形成が必要である。
 集客施設の郊外移転や居住人口の郊外流出により、歩行者交通量は30年前の4割まで低下しており、賑わい創出のため、多様な機能集積や新たな拠点整備が必要である。

将来ビジョン(中長期)
 中核都市・宇都宮に相応しい賑わいと高次な都市機能を備えた多様性のあるまち
 「宇都宮市都市計画マスタープラン」(H12.12/宇都宮市)
 ...広域都市圏の拠点都市としてふさわしい魅力ある地域となるよう、商業・業務・文化等の高度な都市機能の拡充強化を図るとともに、機能的な都市基盤や快適な生活環境の整備を推進する。
 「宇都宮市都心部グランドデザイン(～21世紀における都心部再生のシナリオ～)」(H14.8/宇都宮市)
 ...北関東、更には全国的なネットワークの拠点としての役割を担う地区と位置付け、新都市拠点として、「業務機能」、「情報機能」、「交通結節機能」の充実を中心に、新たに「コンベンション機能」、「産業支援機能」等の集積を図る。
 「JR宇都宮駅周辺整備計画」(H15.12/宇都宮市)
 ...国際、全国的な中枢機能及び広範な地域を対象とする質の高い高次な都市機能の導入を図り、中心地区とともに、関東北部の拠点都市にふさわしい新たな都市拠点の創造を目指す。

目標を定量化する指標

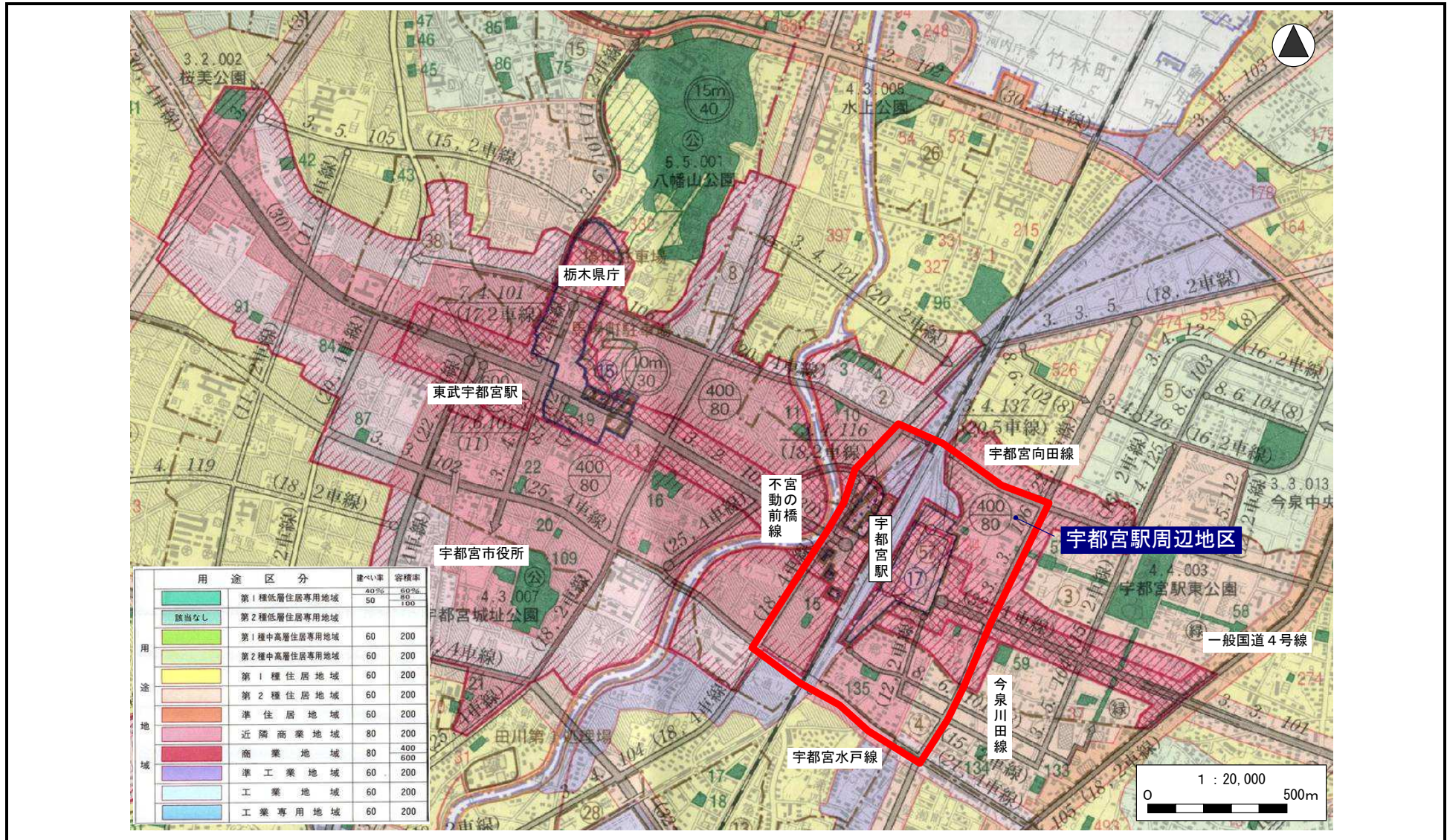
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値
				基準年度	目標年度
宇都宮駅乗降客数	(人/日)	宇都宮駅の1日当たりの平均乗降客数	交通結節機能の強化、都市拠点の形成を図ることで、宇都宮駅乗降客数を増加させる	70,000	74,000 平成22年度
(仮称)交流広場イベント開催回数	(回/月)	(仮称)交流広場における1月当たりのイベント開催回数	賑わいのある交流拠点を形成することで、(仮称)交流広場のイベント開催回数を増加させる	5	10 平成22年度
東大通り通行量	(人/日)	駅前に存する東大通りの歩行者交通量	賑わいのある交流拠点の形成、都市機能の集積を図ることで、東大通りの通行量が増加する	3,300	4,200 平成22年度
コンベンション施設利用者満足度		コンベンション施設の利用者満足度[既存施設(従前値)と新たに整備する(仮称)広域交流プラザ(将来値)の対比][アンケート調査による5段階評価(1:不満, 2:やや不満, 3:どちらでもない, 4:やや満足, 5:満足)の平均値]	北関東をリードする都市機能の集積を図ることで、コンベンション施設の利用者満足度が向上する	2.8	3.1 平成22年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1：交通結節点の整備 バス及びタクシーの利用快適性を向上を図るため、乗降場にシェルターやベンチ、公衆便所等を整備する。 駅利用者や来街者の円滑かつ快適な移動空間を形成するため、東西自由通路及び歩行者デッキを整備する。 道路や駅前広場等の公共施設について、高品位な舗装や植栽等により、宇都宮の顔に相応しい景観を形成する。 高齢者や身体障害者など、あらゆる人が安全かつ安心な移動を支援するため、歩行空間のバリアフリーを推進する。 自転車を都市内交通の一手段として位置付け、その特性を十分に活かした安全で快適なまちづくりを進めるため、自転車歩行空間のカラー舗装化を行う。 初めて来街した人も迷うことなく目的地に到達できるように、多言語標記やピクトグラム等を用いた分かり易い経路案内を行う。 交通結節機能の強化を図るため、自転車駐車場を整備する。 宇都宮駅東口地区に存する空閑地を活用し、都市拠点として相応しい都市環境の整備、新たな広域交流拠点の形成を図るため、土地区画整理事業を実施する。</p>	<p>宇都宮駅東口駅前広場改築事業(シェルター、緑化フェンス)[基幹事業/高質空間形成施設] 宇都宮駅東口公衆便所整備事業[基幹事業/高質空間形成施設] 東西自由通路及び歩行者デッキ整備事業[基幹事業/高次都市施設] 道路整備事業(自転車歩行者専用道路)(緑化フェンス)[基幹施設/高質空間形成施設] 歩行者支援施設(エレベーター、エスカレーター)[基幹事業/高質空間形成施設] 宇都宮駅西口広場改築事業[基幹事業/道路] 市道929号線道路バリアフリー事業[基幹事業/道路] 市道1525号線道路バリアフリー事業[基幹事業/道路] 市道1635号線改築事業(自転車空間のカラー舗装化)[基幹事業/道路] 公共サイン整備事業[基幹事業/地域生活基盤施設] 宇都宮駅東口自転車駐車場整備事業[基幹事業/地域生活基盤施設] 宇都宮駅東口土地区画整理事業[関連事業] 自転車利活用事業(駅西口駐輪場)[関連事業]</p>
<p>整備方針2：交流拠点の整備 市民や来街者、情報が活発に交流し、様々なイベントや活動の場となる新たな交流拠点を整備する。 宇都宮駅周辺地区における文化振興の拠点となるよう、文化財建造物である旧篠原家住宅の修復を行う。 今泉地区の地域住民の相互交流を図るため、今泉地域コミュニティセンターを整備する。 中心商店街の活性化を図るため、出店者への助成により、空き店舗への出店促進を図るとともに、商店街等が実施するイベント等の販売促進事業を支援する。 若年層の中心市街地への定住を促進し、活力あるまちづくりを進めるため、若年夫婦世帯に対する家賃補助を行う。 安全かつ安心なまちづくりに向けて、防犯対策を実施する。</p>	<p>(仮称)交流広場整備事業[基幹事業/地域生活基盤施設] 旧篠原家住宅修復事業[基幹事業/高質空間形成施設、提案事業/地域創造支援事業] 今泉地域コミュニティセンター整備事業[基幹事業/高次都市施設] 中心商店街の活性化[提案事業/地域創造支援事業] 都心居住の促進[提案事業/地域創造支援事業] 防犯対策事業(防犯カメラ設置)[提案事業/地域創造支援事業]</p>
<p>整備方針3：新たな都市拠点の整備 市民及び企業と国内外の人々や情報の活発な交流を図り、賑わいやまちの活性化に繋がる広域交流拠点を整備する。 本市の特徴である「ものづくり」や観光資源情報を発信し、地域産業の理解促進とPR、広域からの集客の促進を図る産業観光情報拠点を整備する。 市街地再開発事業の推進を図るため、専門的知識を有するコンサルタントを派遣し、民間に対して指導・助言を行い、事業化に導く。</p>	<p>(仮称)広域交流プラザ整備事業[基幹事業/高次都市施設] (仮称)産業観光情報プラザ整備事業[基幹事業/高次都市施設] 再開発コンサルタント派遣事業[関連事業]</p>
<p>その他</p>	

都市再生整備計画の区域

宇都宮駅周辺地区(栃木県宇都宮市)	面積	71 ha	区域	今泉1丁目, 駅前通り1・3丁目, 南大通り4丁目, 元今泉1丁目, 川向町, 東宿郷1・2丁目, 宿郷1・2丁目 他
--------------------------	----	-------	----	---



宇都宮駅周辺地区(栃木県宇都宮市) 整備方針概要図

目標	北関東をリードするひと・もの・情報・文化の交流するゲートシティの形成	代表的な指標	宇都宮駅乗降客数(人/日)	70,000	(H14年度)	→	74,000	(H22年度)
			交流広場イベント回数(回/月)	5	(H17年度)	→	10	(H22年度)
			コンベンション施設利用者満足度(-)	2.8	(H17年度)	→	3.1	(H22年度)

